

参照触媒部会

1. 部会の目的

参照触媒部会は参照触媒事業を実施し、また共通の試料を用いる優位性を活用したプロジェクト研究を実施するために設置されている。参照触媒事業は、触媒学会会員に同一の試料を配布し、試料による差異という壁を越えて触媒分野の研究を推進することを目的とし、1979年から参照触媒委員会、2007年から自主性・専門性・継続性を兼ね備えた参照触媒部会が担ってきた。実体物である試料とともに、蓄積・公開されるデータを共有することによって学会会員と繋がり、触媒研究に大きな利点を与えていると思われる。成果は、「参照触媒利用の手引き」としてまとめられ、頒布されている。また、参照触媒を用いる物性測定法、調製法、触媒特性評価法の標準化を目指したプロジェクト研究も行い、プロジェクトに関する参照触媒討論会は第37回を数えている。

2. 組織改編の予定

参照触媒事業の継続的な発展、触媒種の拡充のため、2021年から参照触媒の補充・拡充、配布、参照触媒を用いた研究成果の集計・公開については触媒学会が主体的に運営する参照触媒委員会に移行する予定である。参照触媒部会は当面は移行の準備とその後の委員会の業務立ち上げの支援、プロジェクト研究を含む部会活動の総括を行い、その後に組織を整理する予定である。

3. 部会の活動

3.1 参照触媒の配付

部会活動の根幹は、参照触媒試料の配付である。配付開始から年月を経て試料の在庫が尽きたものに関しては可能な限り代替試料を準備し、途切れのないようにしている。現在も代替試料・新規試料を追加している。2020年度は、シリカの更新（JRC-SIO-19, JRC-SIO-20, JRC-SIO-21, JRC-SIO-22 を追加）、マグネシアの更新（JRC-MGO-3 1000A の配付を終了）を行った。また、JRC-CEO-2 は残りわずかであり、同等品（JRC-CEO-6）の配付が計画されている。この結果、現在のラインナップは、チタニア（8種）、アルミナ（5種）、シリカ（11種）、マグネシア（2種）、ジルコニア（4種）、セリア（4種）、酸化ニオブ（5種）、シリカマグネシア（1種）、ゼオライト（12種）、タングステン酸ジルコニア（1種）、担持金属触媒（1種）となっている。

3.2 ホームページの更新

配付試料更新、プロジェクト研究の進展、参照触媒討論会開催等に対応して、参照触媒部会ホームページの更新を常に行っている。（<https://catsj.jp/reference-catalyst>）

3.3 参照触媒利用の手引き（第7版）公開

参照触媒利用の手引き（第6版）を2014年9月に刊行して以来の改訂を行っている。これまで冊子（CDとセット）を、情報提供者には無償で郵送し、その他の方々には有償で販売していた。会員の利便性の向上、参照触媒ラインナップ更新への速やかな対応等を目的として、第7版からはweb版として公開することとした。触媒 OnTheWeb のリンク

(<https://catsj.jp/jnl/handbook/index.html>) から、正会員と学生会員は閲覧・ダウンロードができるようになった。また法人会員には CD 版の無料送付、その他の方には CD 版の有料販売を予定している。内容はこれまで通り、参照触媒試料の利用方法、触媒一覧、参照触媒部会の活動、プロジェクト研究報告、関係文献リスト、参照触媒を用いた論文・発表データシート、測定標準化マニュアルである。

4. 部会の構成 []内は担当する配付試料名

部会長：片田直伸（鳥取大学）

（連絡先：katada@tottori-u.ac.jp, 0857-31-5684）

副部会長：宍戸哲也（首都大学東京）

幹事：桑原泰隆（大阪大学）、永岡勝俊（名古屋大学、会計担当）[マグネシア]、

部会員：朝倉博行（京都大学）[シリカマグネシア]、岡崎文保（北見工業大学）、

小倉賢（東京大学）[ZSM-5]、黒川秀樹（埼玉大学）、

荻原仁志（埼玉大学）[シリカ]、久保田岳志（島根大学）[チタニア・ジルコニア]、

薩摩篤（名古屋大学）[アルミナ]、

佐藤智司（千葉大学）[セリア、タングステン酸ジルコニア]、

里川重夫（成蹊大学）、菅沼学史（鳥取大学）[ゼオライト（MFI 以外）]、

関根泰（早稲田大学）、竹口竜弥（岩手大学）、富重圭一（東北大学）、

西村俊（北陸先端科学技術大学）[ニオブ関連化合物]

西山覚（神戸大学）、原亨和（東京工業大学）、

松橋博美（北海道教育大学）、

米村将直（三菱重工業）[担持金属]、山下弘巳（大阪大学）

顧問：岡本康昭（元島根大学）、丹羽幹（愛知工業大学、財団法人名古屋産業科学研究所）、

松本英之（CERES 企画）、三浦弘（元埼玉大学）

5. 部会の事業計画

5.1 組織移行

参照触媒委員会設置のための各種立案、業務の移行を行う。以後の 5.1～5.4 は 2021 年度には参照触媒委員会に移行し、参照触媒部会は 5.5 を実施、また組織の整理を行う。

5.2 参照触媒試料の配付継続

参照触媒の補充・拡充、配布を行う。2021 年度から送料は利用者負担とする。

5.3 「参照触媒ポータル」の作成

従来の参照触媒利用の手引きの形態を見直し、継続的に研究成果の集計・公開を行い、また適正な事業資金を得るため、web を通じて参照触媒に関するデータを記載した論文にリンクする「参照触媒ポータル」を作成し、定期的に更新する。

5.4 教育活動への支援

「キャットケム実験室」の活動を支援して、参照触媒を提供する。

5.5 プロジェクト研究の企画・検討

組織改編を記念するシンポジウムを実施し、その後のプロジェクト実施体制を検討する。